

## 平成27年度主要施策の成果のあらまし

区は、基本構想で掲げた将来像「地域力が区民の暮らしを支え、未来へ躍動する国際都市 おおた」を実現するため、平成26年3月に「おおた未来プラン10年（後期）」を策定し、「地域力」と「国際都市」をキーワードに、子育て、保健・福祉、まちづくり、産業振興、地域力、環境など、あらゆる分野の施策を推進しています。ここでは、これらの主要施策の平成27年度の取り組み内容のまとめをご案内するとともに、特に主要な事業について、いくつかその実施状況をご紹介します。

### 1 「おおた未来プラン10年（後期）」における個別目標ごとの事業費（平成27年度決算額）等のまとめ

個別目標	主要施策数 (主な事業数)	取り組みの数	事業費 (平成27年度決算額)
1-1 未来を拓き地域を担う子どもを、みんなで育むまちにします	28	62	24,335,099千円
1-2 誰もが自分らしく、健康で生きがいをもって暮らせるまちをつくります	25	60	2,537,797千円
1-3 高齢者が住み慣れた地域で、安心して暮らせるまちをつくります	11	25	2,578,034千円
2-1 水と緑を大切にし、すべての人に安全で潤いのある暮らしを実現します	25	71	15,640,079千円
2-2 首都空港『羽田』と臨海部が世界への扉を開く、国際交流拠点都市を創ります	13	19	180,793千円
2-3 ものづくりから未来へ、独自の産業と都市文化を創造します	18	42	1,482,471千円
3-1 地域力を活かし、人に優しいまちを区民主体で実現します	35	65	569,542千円
3-2 私たち区民が、良好な環境と経済活動が両立する持続可能なまちをつくる担い手です	10	19	1,419,388千円
3-3 区は、効率的で活力ある区政を実現し、地域との連携・協働を進めます	10	28	4,013,660千円
合計	175	391	52,756,863千円

※事業費については、個々の事業ごとに決算額を千円未満四捨五入し、集計しています。

【参考】  
未来プラン10年（平成26年度）  
主要施策数（主な事業数）：175  
取り組みの数：394

### 2 主要な事業の実施状況

#### ●個別目標 1-1

未来を拓き地域を担う子どもを、みんなで育むまちにします

区立小学校において、共働き家庭等の放課後児童の健全育成を目的とした「学童保育事業」と、児童に多様な体験・活動を通じて自主性や社会性を育むことを目的とした「放課後子ども教室事業」を一体的に実施する「放課後ひろば事業」を開始しました。

また、保育所待機児童の解消に向けては、私立認可保育園と小規模保育所あわせて、新たに14施設を整備しました。



放課後ひろば事業の様子

#### ●個別目標 1-2

誰もが自分らしく、健康で生きがいをもって暮らせるまちをつくります

障がいのある人の総合的なサポートを行う拠点「障がい者総合サポートセンター さぼーとびあ」において「さぼーとびあスペシャルデー」を開催しました。開催期間中に、東京オリンピック・パラリンピックを見据えメダリストによる講演会を実施したところ、大きな反響がありました。

区民の生活習慣予防のため、保健所の栄養士が区内の飲食店に健康メニューの提供を働きかけるとともに、協力店の登録及び広報を行う「おおた健康メニュー協力店事業」を実施しました。



おおた健康メニュー協力店ステッカー（例）

#### ●個別目標 1-3

高齢者が住み慣れた地域で、安心して暮らせるまちをつくります

「寝たきりゼロ」を目標に、高齢者が可能な限り住み慣れた地域で、いきいきと暮らし続けることができるよう、老人いこいの家で新たにチャレンジ講座や健康維持教室等を実施し、介護予防事業を充実しました。

高齢者の情報を照会できる「高齢者見守りキーホルダー事業」について、夜間休日専用のコールセンターを開設し、高齢者の保護時等に24時間いつでも対応できる体制を構築しました。



介護予防事業の様子

●個別目標 2-1

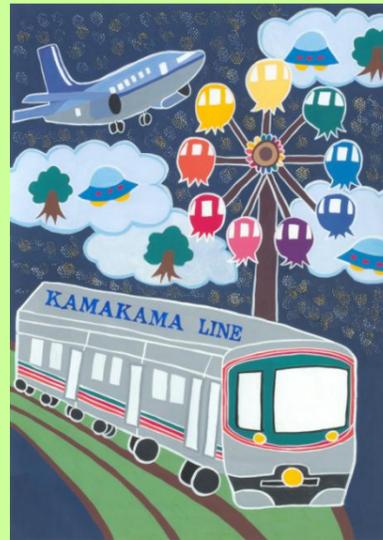
水と緑を大切に、すべての人に安全で潤いのある暮らしを実現します

区は、JR・東急蒲田駅と京急蒲田駅間を結ぶ「新空港線」の整備に向けた事業を推進しています。

平成 27 年度に区が実施した経済波及効果の分析では、新空港線の整備により、都心・副都心からの羽田空港へのアクセスが著しく向上し、非常に高い効果をもたらすと結果が出ました。

新たに公表される交通政策審議会答申に向けて、沿線自治体から大田区を含めた 17 区市長連名による要望書を国土交通大臣へ提出しました。

※その後、平成 28 年 4 月に交通政策審議会から国土交通大臣に提出された「東京圏における今後の都市鉄道のあり方について」の答申の中で、新空港線は整備に向けた高い評価を得ることができました。



新空港線標語・絵画コンクール最優秀作品

●個別目標 2-2

首都空港『羽田』と臨海部が世界への扉を開く、国際交流拠点都市を創ります

世界と地域をつなぐ「新産業創造・発信拠点」の形成をコンセプトとし、「羽田空港跡地第 1 ゾーン整備方針」を策定しました。

また、国家戦略特区制度の「都市計画法の特例」を活用した区域計画が、国家戦略特別区域諮問会議において内閣総理大臣の認定を受けました。この特例認定により、整備方針における拠点形成整備に必要な各手続きをワンストップ処理で行う、スピーディーな事業推進が可能となりました。



羽田空港跡地における成長戦略拠点の形成

●個別目標 2-3

ものづくりから未来へ、独自の産業と都市文化を創造します

来訪者と「まち・ひと」をつなぐ国際都市おたの観光拠点をコンセプトに、京急蒲田駅直結の商業施設内に「大田区観光情報センター」を開設しました。区内、近隣観光地の案内はもちろん、茶道や着付けといった日本文化体験や折紙の体験講座のほか、工芸品等のお土産販売も行っており、旅行者のニーズに合わせた多様なサービスを提供しています。

また、自治体間の連携にも積極的に取り組み、特に川崎市との連携では、大田区・川崎市の銭湯で有名な黒湯をイメージした「黒湯サイダー」を商品化し、数量限定で販売しました。



大田区観光情報センターでの日本文化体験の様子

●個別目標 3-1

地域力を活かし、人に優しいまちを区民主体で実現します

震災や風水害被害の様子は地域により異なります。このため、地域別の被害想定や危険度、避難先等の情報を 1 つにまとめ、相互の関係を分かりやすく解説した 2 種類の防災地図（震災編と水害編）を作成し、あわせて防災チェックブックの大幅な改定を行いました。区民一人ひとりの自助意識の高揚を図るため、この 3 点を自治会・町会と連携して全戸に配布しました。



「防災地図：震災編」「防災地図：水害編（洪水ハザードマップ）」  
「防災チェックブック」の 3 点セット

●個別目標 3-2

私たち区民が、良好な環境と経済活動が両立する持続可能なまちをつくる担い手です

環境にやさしい次世代自動車として注目される燃料電池車を公用車に導入し、OTA ふれあいフェスタやエコフェスタワンダーランド等において燃料電池車を用いた地球温暖化対策や次世代エネルギーの普及活動を行いました。燃料電池車と CSR（企業の社会貢献事業）を活用して区内 5 か所の小中学校で体験型環境学習を実施し、子どもたちに地球温暖化とエネルギー問題や、持続可能な社会づくりに関する学習機会を提供しました。



燃料電池を動力とする公用車

●個別目標 3-3

区は、効率的で活力ある区政を実現し、地域との連携・協働を進めます

少子化と高齢化が確実に進行する中、将来の人口構成の変化が区に与える影響を分析し、人口に関する将来展望を「大田区人口ビジョン」としてまとめました。また、その中で明らかとなった人口構成の変化に対応するとともに、地域・経済社会の活性化を図るため、「大田区まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。



大田区の将来人口予測